

総務文教委員会会議録

1. 開催年月日

平成30年5月14日 開会 11時05分 閉会 12時18分

2. 開催場所

委員会室

3. 出席委員名

西村 慎次郎 宮地 俊則 妹尾 文彦 山下 憲雄
西田 久志 三輪 順治 佐藤 豊

4. 欠席委員名

なし

5. その他の会議出席者

(1) 副議長 惣台 己吉
(2) 事務局職員 事務局長 川田 純士 事務局次長 藤原 靖和
主査 柳本 兼志

6. 傍聴者

なし

7. 発言の概要

委員長（西村慎次郎君） ただいまから総務文教委員会を開会いたします。

〈議長あいさつ〉

〈所管事務調査について〉

委員長（西村慎次郎君） 前回までの委員会におきまして、教育現場におけるICTの活用や学校の環境整備をテーマとして絞り込んだところであります。

まず、前回の総務文教委員会で、小・中学校への現地視察を行って現状を把握しようとい

うことになりましたので、事前に質問事項をまとめておくことで効率的な、また効果的な視察としたいと思います。そのため、質問事項を今日取りまとめていきたいと思っております。

前回、平成26年度に同じような学校訪問をしているいろいろ意見交換をしたんですけど、その時の質問した内容をお手元のほうに配付をさせていただいております。こういう、前回訪問した際の質問を参考にさせていただいて皆さんのご意見をいただけたらと思います。よろしくをお願いします。

前回は、大きく3つぐらいのテーマで、まずは1つ目が施設の整備状況というテーマで9つの質問をしています。2つ目がいじめ問題に関する調査ということで2つ、あと3つ目が生活環境調査ということで6つの質問をさせていただいて、前回はこれを事前に全ての学校に配らせていただいて、実際に小学校4校、中学校2校を訪問して、この質問事項の内容を基にということで校長先生との意見交換をさせていただきました。この質問事項に対する回答については全学校から回答をいただいて、その後の協議に生かしていくという状況です。

なので、この質問を参考にしながら、今回の、今まで協議した内容も踏まえながら質問事項は挙げればいかなということ、前回割と細かい質問まで書いてるんですけど、大ざっぱでもいいですし、そこから深い協議、議論というか、意見交換をお伺いした学校に対してはしていくという方法でもいいですし、全校には質問を投げてもいかなというふうにも思ってますし、そのあたりも含めていかがでしょうか。

委員（妹尾文彦君） 前回の委員会の時にいろいろ意見が出た内容を盛り込んでいったらいいんじゃないかというふうに考えます。

前回は、確かICTの活用状況と、教員の勤務状況といいますが、クラブ活動とかの働き方に、残業が多くなるのはどういう理由なのかみたいなことと、あと進学が市外に行くのはどうしてかというような、そういう内容を盛り込んでいったらどうかなと思うんですけども。

以上です。

委員長（西村慎次郎君） 今まで、教育委員会へ質問を投げてるものと重複するかもしれないけど、同じような内容を今度は現場の意見として伺ってもいいかどうかというところで、1つはICTの活用状況、もう一つが教員の勤務状況とか負担、どういう状況かというところ、あと中学生に限るんでしょうけども、市外への進学率がちょっと高いようなんだけど、学校現場としてどう感じてるかとか、そんな感じですか。

委員（妹尾文彦君） はい、そういう内容です。

委員（三輪順治君） 26年当時に全校対象にアンケートが返って来ておると思います。それから、小学校4校、中学校2校を訪問調査されまして、その内容をまとめたものがあり

ますか。ありますれば、今妹尾委員がおっしゃったんですが、今回はテーマを2項目に絞るとるんですけども、ダブリがちょっとやっぱり、状況的に悪いところは追跡せにやいけません、前回の26年に行われた時の概略をお示しいただいて、それを見た上で項目を作ったほうが、より、先生は違うかわからんけど、議会としては一貫性があるのかなと思います。今、どういう質問せえと言われてもちよっと。

委員長（西村慎次郎君） まとめたものはありますが、すぐ出ます。出てもそれをすぐ見れるかというぐらい量がありますというもので。

委員（三輪順治君） まず、それを今日出していただくことを委員長にお願いして、熟読してくるということを前提に、一つ思うに、ICTの活用もいいんですけども、学校側の、教師の、教える側のほうのICTの活用、非常に時代の流れが早いんで、大変だろうと思うんです。ICTを活用することによって、学校として生きる力とか学ぶ力とか考える力というのを、例えばそういう活用によってどういうふうに引き出したいのか。単に黒板がタブレットに代わるだけでは意味ないんで、そうするとICTの何を活用していく。

それから、教材はどうするんかとか、市販の進学校の教材ではおもしろない、郷土を育てるとか、徳育とかということになると郷土の歴史とか、著名な方々がいらっしゃいます、いろんな教材の作り込みもICTを使って3次元化するとか何かすることによってできるので、そういう、教員の本当にしたいことができるように支援したげることが必要じゃ思うんで、一生懸命現場で毎日ご苦労なさってる先生方を少しでもそういう機械で支えられれば一番ええかなというふうには思ってますので、こういう項目はここにはないようなんで、ちょっと思えばそういうところを、これから非常に不透明な時代というか、ITが読めないですから、AIという話も妹尾委員が本会議で言われたように、学校現場にも相当入ってくる可能性もあるんで。

あと、特に教育環境については、最近社会問題になってます、近隣における社会事件、予想だにしない事件も起きてます。井原の場合は幸いそういうのはないんですけども、高齢化に伴ってボランティアの数が減ったり、或いはネットワークが、若い世代が多いことによって希薄になったり、変に個人情報の保護、変にと言っちゃいけません、余りそれに固執する余り連絡網がとれなかったり、教育を論じる前の問題もあるんで、地域とのかかわり、環境という面を含めて、そういうようなものを前回の結果を基に、加えて、前回ええやつは置いといてもやったらいいかなと私は思います。

委員（山下憲雄君） 非常に難しいんですけども、この間の委員長がまとめていただいたデータなんかで、木之子とか、或いは小学校の児童数の男女格差というか、集団の偏り、女が多いとか男が多いとか、そういったような、中学校でも井原中学なんかは50人ぐらい全体で格差があったように思うんですよ。そういう、少人数化してきますと、10対5とか、

或いは20対10とかといったような関係で偏りがありますと、いろんな教育上の編制の仕方、音楽にしたら合唱とか、運動会にしたらいろんな組み合わせとか、さまざまなことに教育上問題が僕はあるように思うんですね。そういった問題が学校の中で実態としてあるのかないのかということをもつ聞きたいと思いますが、まず1つ。

それから、複式学級を各学校が、既にやっておられるところもあろうかと思いますが、その、複式学級があるのかどうか、ちょっと私も確認できませんが、そういう分野でいろんな問題点、苦勞されてること等々、それから父兄がそのことをどういうふう感じておられるのか、保護者というんですか、保護者という問題。もう一つは、出部とか井原みたいな大勢のところと少人数のところとしますと、少人数のところはそれなりに保護者も、PTAも少なくなるわけですから、そうしますと活動負担の割合、PTA活動負担の割合というんですかね、そういう割合が、大変格差が、多いところと少ないところでは大変重くなると思うんですね。そういうのに対して学校側の、或いはPTA側の問題点でしょうかね、そういうことがあるのか、それはほとんど地元お任せコースにならざるを得ないのか、教育上いろんな問題が出てきとるのかといったようなことですね。

それから、幾つも言うとも申しわけないんですが、第4回教育の答申ですね、それをそれぞれの保護者にもきっちり説明をされてるとは思うんですけども、その懇親会、懇談会みたいなことが現場として計画が必要と思われているのか、実施されたんか、我々も答申を聞いたり見たりしてるんですけども、具体的な説明をするべき必要があるんじゃないかなと僕は思うんですよ。ちょっとかけ離れた質問かも知れませんが、そんなこと。

委員長（西村慎次郎君） 保護者に対してということですか。

委員（山下憲雄君） そう、そう、そう。保護者、地域の人たちに対して。

何でかと言いますと、私が一般質問した時に、いずれ地域の声も上がろうと思っておりますというようなことで、ちょっと上がるの受け身的な発言もいただいと私は記憶してます。だけど、積極的に投げかけていくことのほうが僕は必要でないかということの考えを述べたように思うんですよ。小規模化していく中で、その声も上がるのを待つよりも、そういう地域あるいは保護者との懇親の機会というのを積極的に確認していくことを先生方は望んでおられるんじゃないかなと、教育委員会とはまた現場と別にして、違いがあるんじゃないかなという、その辺を確認したいと思うんですが。

委員長（西村慎次郎君） ちょっと、質問を投げる対象としては学校のほうへお伺いするんで、保護者の意見までが今回の質問で吸い上げられるかどうかという、そこになってくるとまた大変な、PTAまで巻き込んでいくようになるんでそこまではちょっと。

委員（山下憲雄君） 学校の先生方は聞いておられると思うんですよ、いろいろと。

委員長（西村慎次郎君） 聞いとる範囲内ということですか。改めてこちらが投げたの

をPTAへおろしてというところまでは求められんとは思ってますけども。

委員（山下憲雄君） そう、そう、そう。日常の会話の中で聞いておられること。

委員長（西村慎次郎君） 学校として把握できてる範囲内での回答でということによろしいですか。

委員（山下憲雄君） はい、ちょっとランダムですけども。

委員（西田久志君） 前回、4月9日に話をしたとき、1番から9番、執行部への質疑事項の中で3番、4番に特化したような気がするんですけど、その中で市内小・中学校における学力向上、生活改善に向けた取り組み、例はICTの活用とかがあります。4番目が生活状況、ICT活用学習計画、この3、4にまとめてというか、その3、4を中心にいくということで、今回は、前回26年度に行われたいじめとか、整備状況とか、それにも関連することがあるかもしれませんが、この3番、4番に絞るといのが決められたような気がしたんで、これに対してもうちょっと絞っていくということであればいいんじゃないかなと思うんですけど、なかなか多岐にわたるとまた難しい問題が、難しいというか、十分に調べられないようなことがあるんじゃないかなと思うんで、そうするのかなと思いますが。

委員長（西村慎次郎君） 執行部への質疑事項の中の3番、4番ということで、ある程度範囲は絞って、それに関連するところであれば質問事項が広がるのはいいんですが、今回はいじめ等々の、不登校とかに関する各学校への質問とかは外していこうという視点でいってはこのこと、それはそういう方向でよろしいですか。

委員（三輪順治君） ただ、今山下委員がおっしゃった、いわゆる少子化問題が直面してきますので、そういう視点で視察のほうも予定されてるようなんですけども、三好市ね、ある程度、5年とか、10年先は見られんかわからんけど、5年後ぐらいあたり、今の子供さんが小学校に上がる時だから、子供の数が、外から入ってくる方とか出ていく方をカウントは難しいですけど、大体想定されますよね。その時に、今複式学級という話もありましたが、僕は難しい運営をされてると思うんだけど、避けて通れない問題なんです。井原市の教育委員会は、依然として統廃合については小学校は特に10年間かけて検討するという4次計画に書いてあるんです。10年間かけて検討しよったら物はならんようになってくるんで、ある意味、学習環境の整備の中にいわゆる小中一貫であるとか、或いは統廃合後の利用について、議会のほうから少し、視察もあるんで、示唆したことをやれば、僕は今西田委員がおっしゃったような、はねなくてもテーマとして僕は選べていいと思います。

委員長（西村慎次郎君） 複式とかの質疑については、学校の教育環境という、学力向上とか、その辺にも影響する可能性はあるんで、質問の範囲だと私は思っておりますが。

委員（三輪順治君） はい、僕はそう思う。

委員長（西村慎次郎君） PTAとかまでいくと範囲を超えちゃうかなというのは思いま

すんで、その辺で線を引きながら、ある程度はターゲットというか、質問の趣旨というか、大きな方向性の話は絞りながら、その中で何個か質問すると。現場へ行って、いろんな雑談の中でまた時間があればできることはしてもいいのかなと思います。

予定としては、質問事項を今日できるだけ整理して、最終的に取りまとめて5月中には各学校へ送って、6月の下旬ぐらいに実際に学校現場へ回れたらなという大きなスケジュール感を持ってたんですが、前回の質問事項を再度お配りして、もう一度皆さんのご意見を求めてとなると、5月中にまとまるかどうかというところではあるんですが、もう一度5月中に委員会を開くという方法もあるんですけども、いかがでしょうか。

委員（三輪順治君） 多分、これから詰めても、昼から用事のある、帰る方もいらっしゃるし、もう30分しかないんで、私はもう一回委員さんのご協力をいただいて、正副委員長、議長の都合のええ日で改めて再整理していくべきだろうと思います。今日は言いたいことを言うていただいて、前回との整合性もあるんで、3年前か、4年前か。僕は、今日言いたいことを全部言うてもらうて、もうねえかということを確認してもらって、次回セットしてもらって最終確認したほうがええというふうな思いがありますね。

委員（妹尾文彦君） 私は別日にしたほうがいいのかとも思うんですけど、先ほど西田委員さんが言われたように、前3番、4番に絞るという話だったとは思いますが、それに関連して、それぞれの皆さんが質問したい内容を事前に集約して、次この中でこういうのをやっていこうみたいなというふうにしたほうがいいんじゃないかと思います。ここで今言ってるというよりは、皆さんが聞きたいことを集めて、それでその中でどれを質問するというふうにしたほうが効率がいいのかなと思います。

以上です。

委員長（西村慎次郎君） そうしましたら、今日皆さんご意見をお持ちの方は言っていて、それも含めて取りまとめ、26年度に質問した内容はこれですけども、それに対する回答も、各学校からの回答も配付させていただいて、全てを含めて、じゃあ再度こんな質問をというのを事前に皆さんから再度いただいた上で委員会を開くという形で、学校に対する事前の質問事項については次回で取りまとめるという方向でよろしいでしょうか。

委員（三輪順治君） 確認なんですが、各小学校、中学校全校に同じアンケートを出して、全校から答えが来たんですか。それとも、教育委員会でそれをまとめては来ないんですか。

委員長（西村慎次郎君） 前回は、教育委員会経由だったとは思いますが。各学校から回答があったものをそのままいただいております。

委員（三輪順治君） ほな、延べ18……。

委員長（西村慎次郎君） あります。複式学級とかの質問については、複式学級をやられ

てる学校は限られてるんですけども、そこから回答はあって、その他の学校はうちではやっておりませんという回答というような形で、小・中学校関係なく同じ質問を投げてますんで、小学校にしか関係ない内容もありましょうし、中学校にしか関係ないようなのもありますけども、各学校からの回答が返ってきて、それを委員のほうで一覧表にしてるんだと思います。

委員（山下憲雄君） また問題の根本に返って申しわけないんですけども、総務文教委員会が発足して、私もメンバーになって約1年になります。あと、残されるところは1年。1つテーマを上げてプロジェクトに今取り組んでる。それは、いわゆる本市の教育環境を見て、新たな充実、改善などをひとつ把握して、それを今後に生かしていただきたいというような提案を教育委員会に上げる、市のほうへ上げるということを今しようとしてるわけですね。その時に、プロジェクトのテーマで教育環境の整備というのは一つのテーマになっておるわけですけども、その環境とはどこの範囲かということなんですけども、たくさんのことをして取りとめもないことになるんで、テーマを絞ろうよと。そしたら、今2つの、この3、4ぐらいでいいんじゃないかということで、それをした時に、我々がそれを見ていたら、改善点は、現場で聞いたりした、こういうことで、こういうふうにしたほうがいいんじゃないかみたいな提案、政策的な提案も含めてまとめ上げていくと、こういうことになるわけですね。いわば来年の4月、3月中にはその一つのまとめ上げを提案書とする、或いは報告書として上げないといけないわけですね。そういうことですね。そういう段取りですね。

委員長（西村慎次郎君） はい。ですんで、今までいろいろ教育委員会からは現状を説明していただいて、またこれからやることとしては各学校の現場の意見もお伺いして、また先進地の視察も行っているいろんなヒントをもらって、じゃあ井原市にとって今後どういう環境整備ないし方向性に進んだらいいかというような提案を、あと本当半年、まだありますけども、それぐらいでまとめていかないといけないという状況ではあります。

委員（佐藤 豊君） 先生の就労環境ということで、顧問としてクラブへ所属すると遅くまで学校に居なければならぬ、また土曜日、日曜日、祭日という場合、練習試合とか、いろんな形で、付き添う形で先生の負担が増えてる。それはそれとして、今、国全体として改善しようるわけですけど、僕らでも体育系で教員免許も持っとんですけど、その時授業で教えてもらうたのは、最高の教育環境は先生の人間性というか、先生の力量だと。その先生の力量が試されてるんが本場、教育現場だと思うんです。最終的に、先生が子供たちと本当にクラブ以外、授業以外でどれだけ子供たち一人ひとりと接してるのか、その中で日常の激励とかアドバイスとか注意事項とかをする時間を学校現場でどのぐらいとられてるのかなというようなことを最近ずっと思ってます。だから、その辺のことも学校現場から声を聞くと

いうことも必要であって、またそういったことを余裕を持った子供との接し方というんですか、ただただ仕事に追われて子供に接するのも何か白々しい接し方じゃなくて、本当に先生と生徒、本当の人間の思いが通う教育現場になってるのかどうなのか、やっぱりそこら辺も見る視点では今ないのかなというふうには僕は最近思んですけど、そういった視点も現実的に聞いておくべきではないかというふうに思います。

委員（妹尾文彦君） 今のに関連してですけど、確認なんですけれども、この3番、4番の中に先生のどのように生徒と接していただいたいかなというふうなことの質問の内容を入れても大丈夫という。

副委員長（宮地俊則君） それは9番ちゃうかな。

委員（妹尾文彦君） それは違ふと。じゃあ、新たにそういう内容を入れるのは……。

委員長（西村慎次郎君） まず出して、どこまで関連するかというところはもう一度皆さんで、やはり書面で確認しながら入れる、入れないにはなるけど、余り広げ過ぎるのはなかなか方向性が定まらず意見がまとまりづらいつらうと思ふんで、いきたいんですが。

委員（佐藤 豊君） 先ほど、西田委員のほうから話があったんですけど、僕は前回、3番、4番に最終的にみんなで絞っていきましょうという話は、それはそのまま、僕はそれでいいと思ふんですけども、9番もそこにかかわるんじゃないかというふうな思いも持ったんでちょっと今言わせていただいとんで、最終的には3番、4番の中で、先ほど委員長のほうからありましたように現場へ行っているんな話が出てくる、またこちらもいろんな話を聞こうとした時に、そういった視点での質問も出るんじゃないか、またそういったことを現状聞くこともあってもいいんじゃないかというふうなことで言っておりますんで、基本的に3番、4番で今はまとめていかないと、だんだんだんだん広くなるというのはありますんで、その辺は理解していただきたいというふうに思ふます。

委員長（西村慎次郎君） なかなか線引きというのはここで明確には答えられないんですが、その辺は踏まえながら皆さんご意見をいただけたらというふうに思ふます。

それでは、今出た意見と、前回26年度に質問した内容、また回答結果というのを皆さんに再度お配りしますので、1週間程度ぐらいで個々の委員さんのご意見をまとめていただいと再度フィードバック、事務局のほうへこういう質問でというのをフィードバックしていただければと思ふます。それをまた再度こちらでまとめて委員会を開催するという形でよろしいですか。

〈異議なし〉

委員長（西村慎次郎君） では、次回、まだ話は続きますが、とりあえず次回の委員会の

開催日を決めてもよろしいですか。

それでは、次回の委員会は5月28日の14時から、5月28日月曜日14時からということをお願いいたします。

委員（三輪順治君） その時、文章をそれぞれ、質問項目を文章化して持ち寄ったほうがええんじゃない。

事務局長（川田純士君） ここに寄るために、事務局が何日までに委員さんへバックして、委員さんが何日までにバックするか決めていただく。

委員（佐藤 豊君） 何日までにバックする。

委員（三輪順治君） そう、そう、そうせにや。

副委員長（宮地俊則君） これはベースにするんですか、それとも全く、言い方は悪いけど考慮なくていいものとして捉えればええんか、どう思われとんです。

委員長（西村慎次郎君） 先ほど、3、4に絞ってということなんで、26年度のこの質問事項もベースにはしますが、皆さんに最初送るときに、3、4に関係ないものと関係あるもので私のほうで分けて、参考にはしていただくもの、それ以外で26年度にしたものというふうに印ないし何かマークはつけときます。

委員（三輪順治君） いつまでに送ってもらえるかな。

事務局次長（藤原靖和君） 結果については本日中にはデータを送らせていただきたいと思います。

委員長（西村慎次郎君） 今日出た意見については、まとめたものを送らなくてよろしいですか、送ったほうがよろしいですね。

委員（三輪順治君） そりゃ送ってくれにやあ。

委員長（西村慎次郎君） では、今日出た意見をまとめて送るのは……。

事務局次長（藤原靖和君） 極力今日中に送りたいと思います。

事務局長（川田純士君） 明日でええ。無理はせんほうが。

委員（妹尾文彦君） 明日中に。

副委員長（宮地俊則君） ちょっと改めて確認なんですけど、今、それで、それをいろいろ参考にする、委員長がまた分けていただけるというふうに、非常に大変な作業だと思うんですけども、結局その質問を個々の委員が文章にして質問事項を要するに作るわけですね、作って自分なりのものを作ると。それは、さっきから、ちょっとくどいんですけど、3、4に絞るんですか、絞らないんですか。前回皆さんで決めた3番と4番に絞って所管事務調査として進めていきたいと思いますということに、そうなりますとこの例えばいじめの問題というのは外れますよね、はっきり言って。3、4に絞るんですか、それとも絞らないか、そこら辺を今一度確認していただかないと、また前へ進むようでまた戻り、前へ進むようでまた戻り

というふうに思えてならないので。

委員（山下憲雄君）　ちょっとまた僕も、今の副委員長の話じゃないんですが、教育環境ということからしますと、児童・生徒に外部的影響力ですよね、環境ですから、どういう形で影響を与えるかということがあるかということ、例えば学習面については、或いは生活面からは、或いは学校の運営面からは、こういう幾つかの環境、子供に与える環境の視点という分野があると思うんですね。だから、学習面においては、生活面においては、学校の運営面においてそれぞれ子供たちに教育的影響を与えてること、或いはその問題点などは何かという視点からいくと、ある程度フリーにしないと、3、4とすると物凄く括りが、質問を考える側も絞られますから非常に難しいように思うんですが、出したところはそういう視点で委員長がまとめていただくというのが僕はいいと思うんです。でないと、考えるときに、なかなか整理が今つかないと思うんですね、ターゲットが明快になりますと。だけど、環境という一つの、教育環境という調査項目の大テーマがあるわけじゃないですか。ここを考えていけば、整理というのは、ここへ10個ほど出てきたわけですよね。この10個の中から2つとなると、より質問事項というのは難しくなると僕は思うんです。

委員長（西村慎次郎君）　教育環境全般になると範囲が広過ぎるんで、やはり委員の皆さんが整理するときも3、4にある程度は絞って、ただ3、4でもおっしゃるように範囲はまあまあ広いので、判断に迷うところは書いていただいて、当然私のほうでも振り分けはさせていただきますし、皆さんの次回の委員会でも最終的に調整はしないといけないと思うんですけども、ただフリーですとなっちゃうと、また全然違うとこまで出てくると困りますんで、そこは3、4を踏まえてというところをお願いしたい。

委員（山下憲雄君）　それで、その3、4を踏まえるんですけども、ここの中に学力向上というたら、これは学習面の教育環境じゃないですか。或いは生活改善というたら、これは生活環境の問題じゃないですか。或いはその次の学校規律云々とかというたら、これは学校のいわゆる運営上の問題じゃないか。私は、そういうことを捉まえるとこういう視点があるので、その視点からフリーに考えると、いじめの問題も中には運営上の問題で取り上げる質問事項として出てきてもええんじゃないかと思うわけです。そりゃあ、その視点からいくと、今3、4に外れるから、これは削ってとか、これは次の5番の問題に該当するから削ってということは非常に考えの中の思考の中で制約を受けるということをちょっと申し上げたいんです。

委員長（西村慎次郎君）　わかりますが、だけでもそこをある程度どこの方向へというのを考えて。

委員（西田久志君）　前回の4月9日の委員会では、教育環境のあり方についての中の11項目の中の3、4に決定と書いてあって、今度は学校訪問するときの質問事項を今日決め

るというようなことをしとるわけで、また戻ってしまったら何もならない。だから、自分の解釈があると思うんですけど、それは次回のときに自分で質問事項で書いて出されればそれでいいと思いますから、ただただ今日は次の学校訪問する時の質問事項まで決めていこうぐらいレベルだったんだけど、一步戻っちゃった、今日は何だったんだろうかということになっちゃいかなので、前回、教育委員会のあり方についての3、4に決めたわけですよ。その中で山下委員のような解釈を持たれて結構ですから、今回はそれで出したらいいと思うんです。

委員（山下憲雄君） 決定というのが書かれてたんじゃ大変申しわけありませんでした。

ほな、それで了解いたします。書かれていますか。

委員（三輪順治君） いえ、決定なんですけど、さっきおっしゃった発想、視点というのはこの3番に包含されると私は解釈をします。それは、教育はそんだけかかわってきますから、何やかんや、だから学力向上って一口で言うけど、学力のもとになったものっていろんな要素があります。それから、生活改善もいっぱいありますね。だから、そりゃあ3番と4番に絞って正解じゃと思います。絞った中で、それぞれの委員の思いを質問という形で文書化して事務局に送信してまとめてもらう。これをやれば、私は今余りここで議論しようても、それは余り建設的でないので、次の時に。

委員（佐藤 豊君） 出たやつをまとめて。

委員（三輪順治君） そう、まとめが。

委員（山下憲雄君） はい、十分理解いたしました。

委員長（西村慎次郎君） それでは、質問事項については以上で終わらせて……。

委員（三輪順治君） いつまでに。

委員長（西村慎次郎君） ああ、いつまでの件、決めにゃいけん。

事務局が出すのが明日。

事務局長（川田純士君） 明日中で。

委員長（西村慎次郎君） 事務局から来るといふ。

委員（妹尾文彦君） まとめたものです、今日の内容等。

委員長（西村慎次郎君） それでは、今後のスケジュールですが、今日出た意見、また26年度の質問事項について、5月15日、明日中に皆さんのほうへ配付させていただきます。その後、委員の方の個々に質問事項についての整理をしていただいて、5月21日までに各委員の意見を事務局のほうへ提出ください。それを基に各委員の意見を取りまとめて5月25日までに再度委員の皆さんに配付させていただきますので、内容を確認の上、5月28日の総務文教委員会へ出席ください。そこで最終的な質問事項については決定させていただきます。よろしく申し上げます。

全委員 はい。

委員長（西村慎次郎君） それでは次に、今回どこの学校へ訪問するかという視察先の学校についてのご意見を求めたいと思います。

参考までに、前回は、考え方としては小規模校、中規模校、大規模校という選択をさせていただいて、小学校が4校、中学校が2校でした。具体的な学校名が、事務局、わかりますか。

事務局次長（藤原靖和君） 中学校については、高屋中学校と芳井中学校の2校でございます。小学校については出部、木之子、野上、美星の4校でございます。

委員長（西村慎次郎君） ということですが、いかがでしょうか。前回と違う学校へ、4年たってるんで、校長先生も代わられてると思うんで、同じ学校も考え方としてはあるとは思いますが。中学校は井原中学校とか、建設状況もついでにというのものもあるんですけども、そういったところ、一番大きい学校というところもあります、そのあたりも考慮され、あと小学校は、前回は小規模校ということで野上小学校、これは複式もやられてるんで野上へ行きました。あと、中規模として木之子と美星だったかなと思います。大規模校として出部小学校という選択をしたんじゃないかなと思ってます。

まず、訪問する学校数はどうしましょうか。前回同様ぐらい行きますか。数日かかります、これだけの学校へ行くと、何日かに分けて。

委員（西田久志君） 1週間。

委員長（西村慎次郎君） 1日1校ではなくてもいいとは思いますが、日程調整上どうなるかにもよりますし。前回は委員全員行ったんですけど。

委員（妹尾文彦君） 前回と同じ数でいいのではないかと思います。あと、グループがどうとか言われましたが、やっぱり全員で行ったほうがいいんじゃないかと思います。

以上です。

委員長（西村慎次郎君） 前回同様、小学校であれば4校、中学校では2校ぐらい選定して、全ての学校に全員で訪問するというご意見ですが、まず、そこについてはいかがでしょうか。

委員（佐藤 豊君） いろいろ各委員から声が出るとは思いますけれども、正副委員長で一任して、あと学校数も前回並みなら前回並み、ちょっと日程的に日にちがかかるんで、1校ないし2校は減すというような形で、正副委員長で協議して決めていただければというふうに思います。

委員長（西村慎次郎君） そのような形でよろしいでしょうか。

〈異議なし〉

委員長（西村慎次郎君） 時期的には6月下旬を一応目標で調整は進めさせていただくということよろしいでしょうか。

皆さんの都合の悪い日にち、どうなるかわかりませんが。

委員（三輪順治君） 6月25日が最終日や。6月中には無理じゃろ。行けるか。

委員長（西村慎次郎君） ひょっとすると7月に何校か跨るかもしれませんが。視察前に現状の現場を何校か見られて行くほうが比較ができていいのかなとは思いますが。

委員（三輪順治君） ほな、入れ込むか。ちょっと、これは予定を入れまあか。

委員長（西村慎次郎君） それでは、正副委員長に視察先の学校、日にちの調整まで一任させていただくということよろしいでしょうか。

〈異議なし〉

委員長（西村慎次郎君） それでは、以上で所管事務調査については終わります。

〈行政視察について〉

〈行政視察先について協議〉

〈議会への提案について〉

〈回答案について協議〉

・ 宿泊所について

〈継続協議〉

〈その他〉

〈なし〉

委員長（西村慎次郎君） ないようでございますので、以上で総務文教委員会を閉会いたします。ご苦労さまでした。

○ 議会への提案内容

回収場所	記入日	内 容	協議先
郵送	4月11日	<p>毎日ご苦労様です。</p> <p>ここに手紙にしましたのも、体験者でなくては解らないことも有りますが、以前井原市の宿泊設備についてお伺いをしましたところ、児童会館、経ケ丸、美星、など有るので宿泊にはそこを利用して下さいとの事でした。児童会館につきましては、二段ベッドで寝ることは出来ませんが、敷布団と毛布一枚です。春先、寒いときには暖房もなく寝るには余りにも寒いのが現状です。冷暖房装置をつけてもらうようお願いをしましたが、寒いときは誰も泊まらないから、冷房だけですとのことで、いまだにそのまま、しかも冷房も聞かない部屋が有り、不親切極まりない井原市です。担当部署でやる気がないのか、考え方の相違なのか良く解りませんが、設備をしてないから宿泊する人がいないと私は思うのですが、わたしの考えが間違っているのでしょうか。また経ケ丸においても同じで、炊事、風呂、洗濯、寝具全く整っていないくて、それを宿舎としているようで話になりません。</p> <p>私は担当部署、或いは市の幹部の方たちが一度体験して何が必要か、どうすれば年間を通して人を井原に呼んで来れるか、検討してもらってはいかがかと思えます。この時季児童会館でも現状で泊まって暖かくぐっすり眠れるかどうか。何年か前に市長宛にこのようなことをお願いしたことが有ります。前述のような回答でした。</p> <p>私は、現状では、市体育館、グラウンド等利用者が増えて来ているので、体育館の南側の駐車場の上に宿泊所食事をするところ（日常は食堂として軽食喫茶にして）を作れば良いのではないかと思います。100人規模の大きさと20人規模に区切れるようにして、人を井原に呼び寄せるようにすればと思っております。このことも前に申し上げましたが一蹴されました。</p> <p>人口減少に有る中で、人を寄せる事を考えないと人は来ないと思えます。</p> <p>何方でも構いません、体験していただいて、どう云うのが宿泊所なのか考えていただきたいと思っております。他県施設なども見学研修していただきより良いものを作って行ってもらいたいと思えます。これが緊急事態の時にも役立つ場所となるかもしれません。</p> <p>やる気なさが余りにも腹が立ってお手紙にしました。一度皆様で検討してみてください。大変お忙しいと思えますが、井原を思っているものが、ここにもいるのかと思っております。考えてやって下さい。</p>	総務文教 建設水道